



緑の架け橋

会報第 16 号

2010年07月01日

植林活動が、少しでも自然環境改善につながれば

第 13 回植林緑化派遣団 (2010年4月09日~13日)

~第 13 回植林緑化派遣団 (2010 年春) 報告~



中寧県にて (2010年4月11日)

2002年から開始された中国植林緑化活動協力事業「緑の架け橋」は、日中緑化交流基金の助成を得て、図表のように寧夏回族自治区の6か所で進められてきました。この間、多くの方にボランティア植林活動へ参加していただきました。今回は、「日中青年銀川生態緑化事業」、「日中青年石嘴山生態緑化林事業」の最終年度となり、この2か所のプロジェクトは今秋の補植活動を経て終了となります。継続案件の「寧夏中寧県日中青年生態緑化モデル林事業」へ、引き続きご協力をお願いします。

プロジェクト名	事業実施期間	植林面積
寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクト	2002年度~2004年度	330ヘクタール
寧夏・日中青年平羅県生態緑化林事業	2004年度~2006年度	290ヘクタール
日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林プロジェクト	2005年度~2007年度	300ヘクタール
日中青年銀川生態緑化林事業	2007年度~2009年度	180ヘクタール
日中青年石嘴山生態緑化林事業	2007年度~2009年度	250ヘクタール
寧夏中寧県日中青年生態緑化モデル林事業	2009年度~2011年度	300ヘクタール

この2か所のプロジェクトは今秋の補植活動を経て終了となります。継続案件の「寧夏中寧県日中青年生態緑化モデル林事業」へ、引き続きご協力をお願いします。



緑の架け橋プロジェクト

中国植林緑化活動協力事業

IFCC 国際友好文化センター

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 333 辻ビル 405 TEL. 03-3268-4387 FAX. 03-3268-6079

口座：中央労働金庫市ヶ谷支店 (普)0858119 郵便：00130-9-425994

本会報は事業主催 (IFCC) の植林プロジェクト特集となります

各プロジェクトの遂行状況



(銀川市：2010年6月撮影)

銀川市第三期遂行状況 (2010年6月)

2009年11月

現地調査、作業設計、土地整備、作業道路整備

2010年2-3月 穴状整地 (75 ha)、穴掘り、化学肥料
農薬購入、苗木 144000 本購入、灌漑パイプ整備

2010年4-5月 植林 75ha、植樹 144000 本、灌漑、病
虫害防止

今後の予定

6月水遣り、除草 7月施肥、農薬散布

9月活着率チェック、事業検収



(石嘴山：2010年5月13日撮影)

石嘴山市第三期遂行状況 (2010年5月)

2009年11-12月 植林や作業林道などの設計完了

2010年1月 緑化用苗木の予算及び入札完了

2月 整地、作業林道整備、植林前の準備作業

3月 パイプを設け、植林 66ha、計 9.03 万本

4月 灌漑、踏み固め作業など

今後の予定

5月保育管理

7月土かき、除草、一回追肥、農薬散布。

8月複合肥料を散布、農薬散布

9月活着率を調べ、基準に達していない事業地域に秋季



(中寧県：2010年5月撮影)

中寧県第二期遂行状況 (2010年5月)

2009年11月整地 100ha

12月引き続き整地

2010年1月 植林事業設計

2月 苗木購入契約を結んだ

3-4月 100ha を植林、植林本数 12.3 万本。
灌漑設備を整備、苗木に枝打ちなどの作業。

今後の予定

5-6月 保育管理、灌漑、病虫害防止

7-12月 事業に保育管理や灌漑、施肥、病虫害予防、
防火などの作業を強化し、植林の活着率を確保する。

第13回植林緑化派遣団（2010年4月09日～13日）活動報告

報告：大分県中津市職 黒川裕基

緑の架け橋推進プロジェクト「第13回植林緑化派遣団」の一員として中国の砂漠での植林活動に参加するという非常に貴重な機会を頂きました。日本国外に出るのは初めてで、砂漠というものは知識では知っていましたが、実際に砂漠を目の当たりにし、黄河の流れがすぐ近くにあるのに、その隣がすぐ砂漠になっていることに驚きを禁じえませんでした。そしてまた、この砂漠の緑化に取り組んでいることに感動を感じる旅でした。

事前学習会および結団式・壮行懇親会

植林活動に行くに当たり、この事業の趣旨と経緯の勉強会があり、この事業が1998年に長江流域で大洪水があったのを機に、こうした自然災害を食い止めるために設けられた「日中緑化交流基金」が始まりであることを学びました。そして、これまでに取り組んできた植林活動の成果の紹介があり、その説明の中で、団長自身がこれまでに何度も中国まで足を運び、植林する場所について、単に植林をセレモニー的に行うのではなく、一緒に植林した苗木を育てるための地元の協力体制や、日中の協力の証であるという成果がわかりやすい場所を選定していることに、この事業への思い入れを感じました。

羽田→北京→銀川へ

翌早朝の羽田発北京行きの飛行機で北京空港に降り立ち、入国審査を終えると毎回この派遣団の日本語スルーガイドをしてくれているという劉さんが出迎えてくれました。まずは中華全国青年連合を表敬訪問しました。その幹部と佐藤団長との歓談の中で、「中国では黄砂のために5m先が見えないことがある。このため北京周辺の環境対策には力を入れている。」との説明に、佐藤団長は、「我々の植林活動は、今は小さな点でしかないかもしれないが、この点を線にし、さらに面にしていくことが重要である。」と述べ、相互にこの事業の重要性を認識しあい、和やかなムードで表敬訪問を終えました。この後、少し北京市内を見て回り、空路、植林地である寧夏回族自治区の銀川へ行き、中国での1日目を終えました。

銀川・石嘴山市における植林活動

一路、バスに乗り銀川生態系緑化林へ。途中、バスからの車窓を眺めていて、日本と比べ草がほとんど生えていないことに、中国内陸部の乾燥した大陸性気候を垣間見た気がしました。緑がほとんどなかったといっても、畑は結構あったので、後から聞いたところによると、季節が春になったばかりなので、まだ農作物がないだけで、夏には一面緑の畑が広がっているとのことでした。それにしても、日本と違い、ここでは、ほとんど大地がむき出しであることに、砂漠でもないのに大地がこれだけ乾燥しているのだという思いがしました。ちょうど季節が春ということもあり、天気によっては黄砂がひどく、目も開けられないような時があるらしく、事前の説明では砂除けのためマスクや耳栓などを用意しておくように言われていましたが、幸い天気には恵まれました。現地では、まず歓迎のセレモニーがあり、佐藤団長があいさつの中で、この植林活動の意義と重要性を唱えました。双方のあいさつが終わると、最後に記念碑の除幕があり、それが終わってから、我々派遣団と現地の人たちとで植林活動をしました。現地では多くの小中学生くらいの人たちが参加してくれていました。中国に来て最初に表敬訪問した時の幹部の人が「小さい頃から自然を守る



(上・下：石嘴山市での植林活動)



という意識を持つことが大切である」と言っていました。この子たちが大人になる頃には、ここで植林した木も根付いて、この一帯が緑で覆われるようになってくれば、黄砂の被害も多少は減るだろうにと思いつつ、最初の目的地での植林活動を終わりました。

中寧県での植林活動 (下：写真)



植林活動は、2日間で計3か所行いましたが、いずれも最初の植林活動と同様で、最初にセレモニーがあり、その後から、地元の小中学生くらいを中心とする人たちと一緒に苗木を植えるというものでした。こうして植えられた苗木は、地元の人たちにより、しっかりと管理され、活着率は何と90%以上のことでした。これは、植林している場所が砂漠地帯であることを考えれば驚くべき数値であり、植林する場所の選定もさることながら、地元の人たちの熱い思いがあればこそであろうと感心させられる思いでした。3日目に砂漠に案内して頂いたのですが、車で数時間のところに、サハラ砂漠を思わせる

ような砂漠が広がっているのに驚かされました。しかも、このすぐ近くの歩いて行ける距離のところに黄河が見えていることに二重の驚きです。大量の水がある、そのすぐ隣に不毛の砂漠地帯が広がっているわけですから、この水があれば木が育つだろうに、と素人考えでは思ってしまう。しかし、それだけ雨が少なく、この河の流れは遠くチベット辺りの雪解け水などが集まって、この大河を形作っているのだらうと思いました。後日調べたところ、訪問地である銀川市の年間降水量は188mm程で、これは東京の1466mmと比べ8分の1でしかないことを知りました。

中国の砂漠化は、毎年、黄砂が海を越えて日本まで降ってくることも分かるように、決して日本と無縁ではありません。また、近年では黄砂だけでなく、光化学スモッグまで海を越えてやってきました。今や中国の環境問題は日本にとっても大きな問題であり、今回の植林活動が、少しでも自然環境の改善につながればという思いで帰国の途につきました。

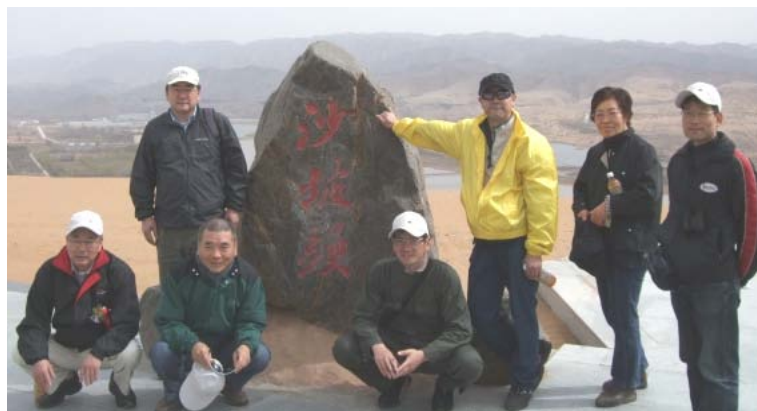
最後になりましたが、今回このような貴重な機会を提供して下さった皆様に感謝します。



中寧県のプロジェクト地の周辺

第13回植林緑化派遣団参加者(8名)

佐藤晴男	プロジェクト代表
君島一字	自治労共済
金澤 康	自治労/岩手
伊藤浩二	自治労/長野
朝長真弘	自治労/佐賀
黒川裕基	自治労/大分
君島茂登子	長野
内海野花	IFCC事務局



黄河河畔の沙坡頭にて